

会 議 録

会議の名称	第6回西東京市図書館計画策定懇談会
開催日時	令和5年9月20日（水）午後1時から午後3時まで
開催場所	田無公民館3階活動室4
出席者	【委員】小西委員、島委員、鈴木委員、大塚委員、長谷川委員、小田委員、伊尻委員、ギログリー委員、山辺委員、徳山委員（図書館長）、司城委員（副館長） （欠席）石井委員 【事務局】金本庶務係長
傍聴者	0名
議 題	第1 これからの図書館の方向性について（案） 第2 その他
会議資料の名称	資料6-1 西東京市の新図書館構想について（案） 資料6-2 新旧図書館計画 目次対比 資料6-3 新旧図書館計画 基本方針等対比
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
<p>○座長 第6回図書館計画策定懇談会を始める。 議事について、館長から説明を。</p> <p>○図書館長 議題は、前回に引き続き「これからの図書館の方向性について（案）」と「その他」となっている。配布資料の確認、「資料6-1 西東京市の新図書館構想について（案）」、「資料6-2 新旧図書館計画 目次対比」、「資料6-3 新旧図書館計画 基本方針等対比」。</p> <p>○座長 それでは、議題の「これからの図書館の方向性について」ということで、資料に用意されている「資料6-1 西東京市の新図書館構想（案）について」は、図書館と私とで協力し、文案として用意した「たたき台」。各委員が本策定懇談会で議論してきたことを踏まえているが、まずは第一に、修正していかなければならない点は、誰の立場で書くのか、現時点では策定懇談会の立場で書いている。しかし、この西東京市の新図書館構想は、作成する西東京市図書館計画の第6章であり、西東京市教育委員会が発行部署になっており、西東京市図書館の立場で書くということ。一方で用意した「たたき台」では、策定懇談会の立場で書いるため、図書館をかなり客観視して書いているので、書き直さなければいけない。そのようなことを前提に置き、策定懇談会の各委員が、これまで議論してきた、新しい図書館、このような新しい図書館を持つべきだ、ということに関する部分と、行政側を説得しなければならない、市民に対してもアピールしていかなければならない、市議会議員の方々にも理</p>	

解いただかなければいけない文書が必要。その点で、どのようなアピールをすべきか、不足している点等々、指摘して欲しい。

○図書館長

前回の策定懇談会時に副座長から、ハード面、施設面が中心に書かれている点、サービス面を入れたほうが良いと指摘があった。今回、座長と協議した上で、大きな3番として、これからの西東京市図書館構想の中に、サービス面・ソフト面の記述を追加して書き入れたい。また、図書館職員からの意見や考えなども入れていければ良いと考えている。将来このような図書館でありたいという面を打ち出したい。各委員の意見を賜りたい。

○座長

構成順に用意してあるが、どこからでも一文章なので意見を出して欲しい。ソフト面が弱いという欠点はあるが、「第6章西東京市の新図書館構想（案）について」の「3 これからの西東京市図書館構想」「(1) 新しい図書館の持つべき機能」として①から⑨まで並んでいる。順番が精査されている訳ではないが、見出しの立て方についても、機能的な言い方であるとか、サービス名称であるとか、施設の部分名称であるとか様々なので、その辺も、気づきがあれば、指摘して欲しい。

○委員

おはなし会やハンディキャップサービスなどのという箇所、普通、「おはなし会」は、ひらがなで書く。他にあれば見ながら意見する。

○委員

「西東京市民と図書館」では、現状と課題の中に、配置の次にサービス、その次に施設について書いてある。現在抱えている課題について述べる時は、現状を押さえて、現在抱えている課題について述べるほうがわかりやすい。配置、サービス、施設という順番や分け方は、後述では抱えている課題が老朽化、狭隘化による限界となっており、それは施設の問題なので、齟齬があるのではないか。

それから、図書館機能が果たせないという箇所については、納得しながら読み進められるが、分量的にはもう少し絞ったほうがよい。また、空白地帯の存在という箇所の話は、新しい中央図書館をどのくらいの規模にするか、その規模でどこまでサービスをするのかが関わってくる。そのようなことを全体的なバランスの中で、新しい中央図書館がカバーするからというのは、現状確認かもしれない。これからの西東京市図書館構想という中で、具体的に述べていく形が良いと思う。様々な図書館サービスの拠点となる場合の児童サービスなどと、学習スペースやグループスペースは具体的な内容なので、階層が違うと思う。最後に「(2) 今後の図書館配置（新しい西東京市図書館網の構築）」に書かれている、中央図書館とそれ以外の図書館の機能について、ある程度整理しないと、配置について述べるのは難しい。

○委員

「③滞在型図書館の実現」という箇所に飲食コーナーの設置という表現があるが、滞在型図書館を実現するには、カフェを併設するという形にしても良いかなど。○数字の中に、1つ1つ書くのではなく、2つ3つある書き方でも良い。学習スペースやグループで活動するスペースは、静かさという面では対局にあるが、様々なものがある、というように並べていても良いと思う。

○委員

「3 これからの西東京市図書館構想」の記述のなかで、将来の図書館の配置について、空白地帯の解消やアクセス問題に多くの意見があったが、なかなか難しい。また、新中央図書館ができた場合、既存の図書館をどのような役割にしていくのか、どの機能を吸収するのかなどを文章中に盛り込んでほしい。

○委員

今までの策定懇談会の議論の中で、かなり問題も明確化され、集約されたと思う。その中で補完内容ではあるが、資料にはないが1970年代当時から閲覧席の数は当初のままで、中央図書館が西東京市の資料を担っているが、その資料が多くなり過ぎてしまい満杯になっている、収蔵能力の限界がきているのであれば、次の新しい図書館でも同様となる可能性がある。例えば地域資料ではデジタル化して保存することも考えられる。また、将来的には災害や福祉などの問題が、これからの社会では重要になるので、医療、福祉、交通や防災なども公共施設が担っていくと考えられていることから、図書館がより充実した施設であれば、災害など対応できるのではないかと。

○委員

「西東京市の図書館」という総論が全体としてあり、現状をどのように捉えるか、ということだと思うので、現状の中には、現在の図書館ネットワーク、図書館サービスの有り様書き込まれ、最終的には、施設やサービスを含めて、整理していき、将来の図書館の有り様とするという形にする。

例えば、西東京市民と図書館の項目の最初の見出し、「図書館とは」という問いかけで良いが、いわゆる図書館の総論のように図書館とは何かという時、広場としての図書館、何か生まれてくる場所、というメッセージを加えて欲しい。広場としての図書館とは、コミュニティがあり、図書館によって新しい人間関係、社会が広がる、そのような役割が本来の図書館にはあると考えている。もう一つ、地域の図書館としての位置付けをしっかりと記述すれば、地域・行政資料室の位置付けがもっと明確になる。西東京市の事は、西東京市図書館が責任を持つというメッセージにつながる。

総論の中で「いつでもだれでも無償で利用できる今日の公共図書館人類の偉大な発明のひとつです」という記述があるので、自由に利用ができ、拓かれた今日の図書館は、新しいコミュニティが生まれて、というような記述があれば良いと思う。

きちんとした地域の図書館の有り様を含めた総論を書きながら、西東京市図書館は、このような経緯で現在に至っており、現在の図書館サービスから将来の図書館ネットワーク、図書館サービスの有り様を全体としてまとめれば良い。

○副座長

5年前の図書館計画において「図書館の展望」についての章があった。その展望と資料と読み比べたが、中央図書館の面積について、「一定規模（3000から5000㎡）」という具体的な数字を述べている箇所は、前計画では「2000年以降中央図書館は、多摩地区平均4000㎡以上」の記載があった。前回の方が良いと思う。次は、前計画の中央図書館の方向性、「人とのつながり」というのが、挙げられている。読書の振興や賑わいの喪失などに対して、利用を通じた情報の蓄積、発信などにより、利用者図書館双方の情報共有、市民との協働を担うネットワークに中央図書館が存在するべきと述べられている。同じ表現は必要ないが、意味として、人とのつながり、双方向というのは大事だと思う。もう一つは、ラーニングコモンズの施設ということを前回具体的に言葉として挙げているが、一般的には聞きなれない言葉だ。大学図書館の方で学生への学習支援として、いろいろな情報通信環境、学習整備や職員の支援などのことだが、そのようなイメージが前回述べられていた。この言葉を使う、使わないは別として、市民が集まり、そこで勉強する機会、本がある、相談できる人がい

る、このようなニュアンスは、今回でもレファレンスで触れてはいるが、ゆったりと勉強ができる、調べ物ができる、という視点は大事だと思う。

最後のページ「地域館のスリム化」という表現が気になる。例えば、中央図書館が仮にできたとすれば、各地域館はスリム化というよりは、役割・機能の見直し、という言い方が良いと思う。

○座長

これからの図書館に関係している第一章が不揃いということは、指摘のように、ここは新しい図書館が求めていく機能、機能だけではないが、もう少し項目をサービスの観点と、滞在型の図書館を実現するという箇所をいくつか絞ってまとめながら書き直す必要があると感じている。あまり階層を作ってしまうと複雑になるので、項目の大きさ自体を整える中で、まとまるものはそこに記載していくという形に直す。

冒頭の文章で図書館の役割というのは、非常に重要な部分なので、委員の意見である広場としての図書館やコミュニティの部分という表現を少し加える。副座長から指摘のあった前回の人のつながりや賑わいの喪失、双方向のことをうまく取り込んで一文にする。また、ラーニングコモンズを使うか使わないか。私自身、ラーニングコモンズは大学図書館でずっとやってきた親しんだ概念なので、グループで学習するスペースという表現の中で、声が飛び交っても良い空間として、ラーニングコモンズという言葉を使わず、うまくイメージ的に表現できればと考えている。

第1節で「図書館とは」を述べ、そして、第2節は「現状と課題」を書いている。図書館の配置については、図書館ネットワークのことを書いているので、西東京市の図書館が図書館ネットワークとして、どのような現状にあるのかを書いた部分であり、現状の図書館サービスは、どのようになっているのか、そして、施設はどのようになっているのか、という3つの現状に分けたが、現状と課題とは、ということを書く、現状を書いていると課題が同時に出てくるということになる。当初、館長と相談した際、現状と課題とは表裏一体なので一つにする予定であったが、現状はこうだが、課題はこうだというように、読む方にとって、分けた方が良いと考えて、無理に分け、重複をいとわず分けたところだ。現状を書いている中で、それぞれこのような課題を抱えている、と直すことできる。あとは、もう一度最初に戻るが、新しい図書館について、どのような柱を元に再構成した方が良いか、意見をいただきたい。

○委員

副座長のおっしゃるとおり、地域館のスリム化という語は、大きな中央図書館が新しくできた時に、地域館の在り方にどう影響するか気になる。他自治体だが、大阪の豊中市の図書館は市内に大きな図書館数館と地域館で11館の図書館ネットワークを作っているが、改めて新しい図書館5000㎡を超える大きな図書館を作ろうとしている。豊中では、歩いて行ける場所に図書館があり、11館の運営を行政も市民も納得している図書館の在り方だったが、新しい図書館を建てるにあたり、11館ある図書館を概ね3館に再編しようと検討しているそう。これを参考に西東京市の今後を考えると、大きな図書館が一つできれば、もうそれで充分だという話ではない。歩いて行ける所に図書館のような市民が情報にアクセスできるというのは大事なことだと思う。そういうことにも触れられている計画ができるとうれしい。デジタル化が進むなかで、将来、いろいろな媒体が出てくると思うが、デジタルにはデジタルの在り方があり、それとは別に、子どもが現実の重さを感じながら自分の手でめくれる紙の本というのは、大きな意味があると思う。100年後は想像を絶するが、現在は、デジタルと紙と両方必要な時代であり、それを実現するためには、少なくとも子どもにとっては歩いて行ける場所に図書館があって、本に触れられるというのが必要。大きな素敵な図書館が一つできたら、あとは必要ないというのではなく、現状の地域館の場所が、アクセスするのに便利

だということは間違いない。

○座長

「(2) 新しい図書館配置」で図書館のネットワーク網という言い方ではなく、ネットワークという言葉でいうと、市としての図書館サービスを図書館ネットワーク化という言葉にした場合、図書館ネットワークの中に大きな施設を建てると、どうしても既存施設に見直しが入る。見直しに替わる言葉として、スリム化という言葉を使った。この言葉は良くないということがわかり、そうではなく、委員の指摘のとおり、まさに市民の方が望んでいることは、大きな図書館を望みながら、歩いて行ける所に図書館サービスがあるということを、計画に書いていく必要がある。

冒頭の部分は、図書館とは何かという一番基本的なことをまとめた。先ほど申し上げたとおり、前計画の最終章に書かれていることを新しい計画に盛り込んだ形でできるだろうと思っている。第一節の第二項目、第二段落の文章は、完全に図書館目線ではなく、懇談会目線で書いているので、行政の支援や図書館員の献身的な努力、何よりも熱い市民の支持によって発展してきたという箇所は、それなりに良い考えと思ったが、行政の支援なくして出来ないことであり、行政が無理解なところに、図書館は建たないので、そこは別の表現に書いていく。

自由に先ほどのこれからの図書館をまとめる軸含めて、アドバイス、意見があれば。

○副座長

先ほど項目立て、構成の話があったが、第一節の初めにある現状と課題について、長く書かれているが、現状と課題というのは、裏と表の関係があり、同じ文章で表現が違えば現状と課題になると思う。現状を述べている箇所は、短くコンパクトにまとめて、西東京市の現状という節のような形でまとめ、その後に課題というところで、解決方法を細かく書いていけば良いと思う。

○座長

「2 西東京市の図書館の現状と課題」を「2 西東京市の図書館の現状」とするということか。そして西東京市図書館の現状は、このようなネットワークにより、このようなサービスを、このような施設状況で提供している、ということで合っているか。現状について更には書いてしまうと、「(1) 図書館の配置」くらいの分量となる。また、「(4) 現在抱えている課題」を(2)に繰り上げて、詳しく書いていいと。

○委員

課題をグルーピングして、各委員がまとめている内容については、納得して聞いていた。一方で、課題をどのような視点でまとめるのかということ、本来は階層ではないと思うが、座長が言うとおおり、どのような立場でまとめるかというところが、なかなか難しい。サービスの視点なのか、施設面の視点なのか。十分な図書機能が果たせてないということは、本当に大きな部分なので、果たせていない機能別に対して、いくつか大きく項目立てし、滞在できないのか、そうなのか、収蔵量不足、老朽化はどうしても起きてくる。これから新しい図書館を作っていくときに、何故狭いと問題があるのか、やはり保存・保管の問題、滞在や学習スペースなどの図書館機能を果たせてないということになるので、その辺りの視点について、皆さんがどの視点でまとめられれば良いと考えているのか、聞きたい。

○座長

老朽化自体は、確かにそれ程の問題ではないと言えるが、老朽化しなくとも雨漏りはするし、問題点は生じる。建物そのものにおける問題は、老朽化することと、建物が狭いという

ことで、まとめることができる。ただ、その結果生じている、収蔵力の問題や図書館が老朽化すること、狭隘であることで十分サービスができないということ、フェイズが違うということか。

○委員

各委員の意見は、課題がグルーピングされていたので、納得して聞いていた。一方で、課題をどのような視点でまとめるのかは、なかなか難しい。サービスの視点なのか、施設面の視点なのか。十分な図書機能が果たせてないというのは、本当に大きな部分なので、果たせていない機能別に、大きく項目立てし、滞在できない、収蔵量不足などを挙げると、老朽化は必ず問題になる。これから新しい図書館を作っていくときに、何故狭いと問題があるのか、やはり保存・保管の問題、滞在や学習スペースなどの図書館機能を果たせていないということになるので、その辺りの視点について、皆さんがどの視点でまとめられれば良いと考えているのか、聞きたい。

○座長

現在抱えている課題で、まとめ方について他に何かないか。

○委員

とても難しい問題だ。施設の問題とサービスの問題には、もちろん施設が絡むので、人と人が交流する場所がない、出会う場所がないということも携わってくる。サービスの視点でいえば、児童サービスの評価や、障害者サービスなど、一つずつのサービスの在り様があるので、その辺りは、施設規模によるサービスの在り様や、人員との絡みもあり難しい。

いずれにしても、現状はトータルに描き、課題としては、現状を解決、改善するような、現状を言う必要があるのか難しく、現状の捉え方というのは、課題との絡みの難しさがあるかもしれない。

○副座長

先ほど委員からデジタル化の話があったが、現状抱えている課題の一つとして、サービスの課題になるかもしれないが、地域等の資料を含めた図書館資料のデジタル化というのは、老朽化や狭隘との絡みもあるが、現在図書館が抱えている課題なのかなと思う。

○座長

課題というか、課題とする狭隘化への対策的な取り組みとしてある、ということが少しわかったという指摘であれば、課題に。

○副座長

例えば、地域資料であれば図書館に行かないと見られなかった資料をデジタル化すれば、家からでも見ることができる。そのような狭隘化とは違う話として、メリットになっている面もある。先ほどの委員の意見のとおり、子ども読書についても、子どもの読書にとって紙の本での読書は大事だが、一方で紙の本を読めない子どももいる。この前の芥川賞の話ではないが、読書バリアフリーの中で、デジタル化の方が便利だという子どもも当然いるので、デジタル化への取り組みの記述が必要だと思う。

○委員

そのようなデジタル化を進めるのを誰が担うのかというと、職員がすべて担うなら、現在の職員体制ではどうなのかと思う。ラーニングコモンズの話もあったが、そこには学ぶ人が

学びたい方向性に導き、オリエンテーションをしてくれる人が必要ではないか。ぜひ専門家である司書に頑張って欲しい。それには現在の職員数で足りるのか。新中央図書館にこのような機能を求めるなら、現在の体制では足りないだろう。図書館ネットワークが変わっていく時点で、中央図書館に人員を厚くすると、地域館は逆に人員配置が変わるのかもしれないが、それぞれに機能を持たせるならば、職員体制も考え直す必要があるのでは。一方、デジタル化が進めば、本の収集の仕方とか、整理の仕方も変わってくる可能性があるので、本当に5年後、10年後は、どうなっているかわからない。しかし、現在の職員体制ですべて担えていないと思う。委員から施設の安全性についても言及があったが、それは特に公共施設に求められるもので、特に今年の夏は酷暑で、図書館や他の公共施設で休息しましょうという話もあった。また、今後どんな災害があるかわからないが、東日本大震災の時には駅前にある図書館は、一時滞在場所として開放されたかと思うが、公共施設の役割として、特に大きな中央図書館を作るならば、安全、安心のための拠点や一時的に避難できる場所になるべき。

○座長

重要な指摘だ。委員の意見に合わせて、安全安心の拠点としての位置付けを、どこかの項目に入る必要だと思う。あとは、これからの西東京市図書館が、どのような図書館が欲しい、といった時、委員の指摘のとおり、その中で生き生きと働く職員がいなければならないとなるが、現状はどうかと考えた時に、明らかに多忙であり、余裕がなく働く職員の姿を目にする。そのような現状の職員体制ではなく、新しい図書館の中では、体制として整えていなければ、市民が満足する図書館はできないと考える。仮に極端な話だが、建物はこれで良いので、図書館職員を増強して、十分なサービスが提供できるように体制を整える必要があると書いても良いぐらいだが、そこは表現できていない。

○委員

資料と人と施設が図書館の在り様を決める。職員の体制については、計画に盛り込んだ方が良いかもしれない。

○委員

意見交換できるこの策定懇談会の場は貴重だ。

現在抱えている課題の中に、老朽化と狭隘化と別に分けている箇所は、結局、何が課題かといった時、少しまとめると、図書館の収蔵能力の限界があり、二つ目は、図書館機能が果たせていない。なぜ狭くて古いと果たせないかという、先ほどのデジタルサービスも対応できない、ラーニングコモンズ的な対応もできない、読み聞かせに係る場所も確保できないなど、代表的なことを書くことによって、絶対対応できないとなる。そのような内容を書き、空白地帯ということは、結局、誰でもいつでも安心してそこにアクセスできないという話で最初に書いている。市民が平等に無償でアクセスできるという話になった時、場所的に空白地帯が生じるのは問題があるし、また、デジタル資料は図書館に行けない人のために必要だ。場合によっては、安全安心な場所があるということも含まれると思う。

先ほどの狭くて古いという課題によりサービスが果たせないものの、次に、それらのサービスをしっかりと保障するための人材や、デジタル化に対応するためには、職員の能力も必要だから、職員を増やすなどを含めて、何かしらネットワークをつないで、仕事を任せられる人をつなぐなど人的な部分を内容に入れないと、絶対サービスは果たせないと思う。

○座長

出た意見を踏まえて書き直す作業になる。この計画の素案は、最初に使うのは、どの段階か。

○図書館長

パブリックコメントの予定が12月の中旬から1か月程度を予定している。その前に教育委員会に議案として出すので、10月中には計画を仕上げ、教育委員会に出し、パブリックコメントが令和6年1月中旬まで、市民から意見をもらった後、そこで修正が入ってくるので、策定懇談会としては、2月が最終となる。素案としては、10月下旬から11月上旬には、この方向で出す。

○座長

素案としてまとめる作業は、内容がまとまれば数時間の作業である。このような構想で出すということであれば、できると思うが、9月中に策定懇談会で出た意見を反映した内容を各委員に渡す段取りにしたい。多分、完全版とはならず、反映バージョンとして、たたき台という形になるかと思う。今日、出されている意見を取り入れた内容を各委員に諮るということで、また、意見をメール等々で受けて、同内容を反映し、次回にこの場で諮る。他に何かご意見は。

○委員

これからの図書館構想において、一番問題となるのは、建物の物理的な大きさだと思う。それが漠然としている気がする。明確にして新しい大きな建物ができることによって、可能になることが増え、個別の課題が盛り込めるのではないか。何がポイントなのかということをお断りに打ち出してはどうか。他の自治体の図書館をインターネット等で調べたが、図書館が町のシンボルになっているところがある。西東京市は「これが売りだ」というのが残念なならない。新しい図書館が西東京市のシンボルになれば非常に良い。

○座長

そこまで大胆に書いていないことは確かだ。

○副座長

街の顔という意味はあって良い。

○委員

街の顔となることは大事であり、そのために今、議論している。

○委員

そのような街の顔となる図書館に人がくるようになれば素敵だ。

○座長

次の議題。策定する計画は、従来の5か年計画の骨格を踏まえた形で作っていくことになる。資料3に前計画と今回予定の計画案をたたき台として用意してある。同資料の取組項目という箇所を策定懇談会で議論していくことになる。事前に図書館側と話した時に、図書館が担っている現行のサービスや業務は膨大でありながらも、日々、こなしているが、今回の計画の中に示された取組項目というのは、膨大な業務の中から、この5か年間で集中的に取り組む項目として、部門ごとに提示してある。各委員は、先ず、その点を認識しておかなければならない。つまり、5か年計画に柱として、基本方針や施策を立てるが、その立てた柱自体は、市民から見えていない日常業務であるとか、重要な業務であるとか、多々あることについて、特に評価されていない。取り上げられた項目が適切な内容であるのか、5か年計画の目標として相応しいのか、という観点を持つ必要があるという前提を話しておく。

○副座長

資料にある目次の新旧対比だが、今回の計画では、後ろの第6章に将来計画が入ってきており、現状を少しコンパクトにしてある。前計画では、現状と課題が細かく、具体的に児童サービス、成人サービスなどを述べている。

○図書館長

現行の図書館計画の様なまとめ方にしたのは、5年前の策定懇談会において、図書館サービスも含め、様々な視点で課題や現状を出し、試行錯誤してまとめたところがある。今回は、次期計画又は第2次計画と言えるので、現行の図書館サービスの部分でいえば、5年間で実施してきた中での成果や課題という内容は、それらを引き継ぎ、次にどのようにしていくのか、ということになるので、基本方針1や基本方針2などに示す内容に落とし込むということを考えている。

図書館サービスを提供するにあたり課題となることは、突き詰めると施設の場所や、人員体制、予算というところに行きついてしまう。そのような現状でも図書館としてできる限りの範囲で5年間取り組んできており、次の5年間は、このように取り組んでいく、という内容を策定する計画に落とし込みながら、これからの図書館の部分は、5年間の計画を踏まえ、少し先の視点での図書館を考えていく内容としたい。また、現状と課題という面では、過去に現状と課題として出てきた内容は、今現在でも課題になっており、先ほどの議論で出ていたとおり、資料6-2に示しているが、このような現状により課題があるので、これからの図書館に入るだろうという考えでいる。

○副座長

資料では、現状と課題が後ろに盛り込むように書かれているが、現行計画の2章で細かく書いている部分が全部後ろに書かれるということではないという理解で良いか。

○庶務係長

ただ、新しい計画の6章に現状と課題が書かれるので、現状と課題を前の章で書いてしまうと、二重になってしまう。現行計画のサービスについては、5年前に現状と課題があり、このように取り組むと書いているので、その取り組みに対して、どうであったのかということを書く必要があり、第2章に取り組み結果をまとめいく形だ。取り組んだ結果としてある現状と課題を第6章に取り上げるのではなく、施設的な現状と課題を取り上げるという意味。

現状と課題を現行計画では、様々取り上げているが、その中でも図書館サービスとして提供し、取り組んで解決できる問題もあるが、館長が言ったとおり、解決できないことは第6章の方で現状と課題で取り上げるという構成にしている。

○副館長

現行計画では、現状と課題の箇所に様々書いているが、何について書いてあるかというのと、現行計画前となる10年前に「図書館の基本計画展望計画」というものがあり、展望計画に基づいた結果として書いてあり、展望計画の項目立ての形式に合わせて、それぞれの取り組みによる現状と課題を書いている。今回の計画では、現在の計画の各基本方針に対応した5年間の取り組みと、その結果と課題がありできなかった内容について、5年間に協議会で事業評価された形を加味したものが、矢印が示す第2章の所。目次としての分量的には、現行計画における現状と課題がコンパクトになっているが、現状に対する現行計画における取組結果を盛り込むのは、第2章に入る構成だ。

○庶務係長

当初は、各取り組み内容に対して、それぞれの担当に、どのような課題があり、取り組んできたのか、結果としてどうなったのか、ヒアリングしたが、結局、課題解決に至らない面は、5年前と課題と同じだとなってしまうので、第2章で課題として取り上げると、第6章で取り上げる課題と同じになってしまうため、取り組み結果という構成にした。

○副座長

目次だけの段階では具体化されていないのでわからない。

○委員

資料6—2目次対比において、新計画の方の2に西東京市の取り巻く現状として、社会的な背景ということで、国及び東京都の動向があるが、最近知ったが、特別支援学級のある学校の蔵書が足りない傾向にあるらしいとの話があるので、学校との連携にも目配りした方が良くと思う。

○委員

現行計画にある職員の組織計画の現状と課題は削除となっているが。

○座長

職員組織計画というのは、図書館の場合、どのような職員が、どのような体制でやっているかは、図書館サービスと直結しており、市民にとって関心があり、計画として含み公開されるべきだが、項目として、解決できる、できないに関わらず、職員の課題ということを書き込んでおく必要がある。

○副座長

展望計画では、職員組織計画となっているが、職員組織の現状と課題という項目ではどうか。

○副館長

展望計画の策定時では、職員について書かれている部分が職員組織計画という名前としているので、その結果として現行計画では、組織計画の現状と課題としている。

○庶務係長

職員に関する定数・配置などの組織計画は、図書館の所管ではない。図書館での職員組織計画というと各館の職員配置のこと。

○副館長

現行計画では、5年間の職員に関して述べているのは、基本方針6にある職員の専門性、職員集団の箇所。現行計画を受けて今回の計画で述べているところは、基本方針6の(1)における取り組みの箇所で、現行計画と少し表現は変わっているものの、②の取り組みで専門性の高い職員集団での育成による職員強化という内容に引き継がれている。ただ、名称としては展望計画時で書かれていた職員組織計画ではない。

○副座長

職員組織計画という計画自体はあるのか。

○副館長

そのような名称で策定されている計画という意味では存在しない。

○副座長

全てに何々計画とあり、例えば資料計画とは何か良くわからない。

○副館長

展望計画の時に、資料の部分に関しては、資料計画という名称で入っており、内容は計画ではなく、資料に対する取り組みになっている。

○副座長

普通、計画といえば、令和何年に何冊購入し、所蔵数が何冊あるなどの基本計画表があるが。

○副館長

そのような計画表はない。展望計画を作った時に名称として付けているだけであり、内容としては、今回の計画でいうところの基本方針の資料に関する内容だ。

○座長

現在、展望計画は、どのような扱いになっているのか。

○副館長

展望計画は計画終了年を受けて、現行の図書館計画となっており、そこで展望計画を振り返っているため載っている。

○副座長

サービス計画ではなく、サービスの現状と課題が良い。現行計画の2では、サービスの計画の現状と課題になっているが、サービス計画というのは実際ないので、サービスの現状と課題がないと逆におかしい。

○座長

何々計画というものは、確かにないが、サービスや職員の現状と課題というのは、5年間どうであったのか、これからどうするのかを書く必要がある。

○副館長

資料6—2目次対比の左側の欄にあるのは、現行計画の章立てが書いてあり、それぞれの章立ての名称は、現行計画前にあった展望計画に対応している。展望計画に記された資料計画が現状どうだったかを振り返りしている部分で、その現状に対応して、現行計画では新しく基本方針を立てているので、現行計画の中に資料計画、サービス計画や職員組織計画という計画があるわけではない。前計画となる展望計画を振り返り、名称として記述されているだけで、結果として目次として残っている。

○座長

5か年の図書館計画を立てようとして、第1章、計画の概要の下に、計画の目的、計画の位置づけ、計画期間とあるが、これは従来の展望計画としてまとめていた内容を引き継ぎ、現行計画として書き込まれているのであれば、本計画でも述べていくことになる。

○委員

現行計画における2の現状と課題を本計画では後ろに回すとしているが、現行計画では、その次に、1資料計画の現状と課題、サービス計画の現状と課題とあるので、本計画では、第2章の取り組みという名前で、現行計画で実際にこのように取り組んだという現状そのものを記述していくという考えで良いか。

○図書館長

展望計画を策定していた5年前に話し合った内容の項目に対して、現行計画の2に書いてあり、基本的な考え方や基本方針による取り組みを現行計画15Pに書いている。これから5年間取り組む内容として、新たな位置づけでとして取り組むもので、本計画では、現行計画15Pにある基本方針の1から6までのことについて、資料6—2目次対比の右側にある第2章の所に入れてある構成となっている。

○委員

職員組織計画の現状と課題という名称は、本計画では記載しないとしているが、先ほどから話し合われている中で、職員計画という言葉に関連する内容は、どこかに書いた方がよいのではないか。

○委員

本計画の目次で基本方針6では。

○委員

基本方針6にある運営体制に関連する内容として記述されるのか。

○副館長

現行計画をお持ちであれば、確認いただきたい。現行計画P2からP7までにかけて、現行計画前となる展望計画に基づいた現状と課題を述べている箇所となっている。展望計画の中身を章立てするイメージであり、その章立てとして、資料について書かれている内容が資料計画という名称、サービスについて書かれている内容がサービス計画という名称、職員計画について書かれている内容が職員組織という名称、施設について書かれている内容が施設計画という名称になっており、展望計画における章立てに対応して、そのような書き方で結果をまとめている。展望計画に対して、現行計画では、基本方針と施策の方向性と取組項目という構成にしており、現行計画を新しく「図書館計画」として始めるときに形作った。現行計画において、それぞれの基本方針に基づいて取り組んだ結果を書き込む箇所が本計画の2章となる。また、解決できない施設的な課題を書く部分が6章となっているという目次対照表だ。

現行計画にある資料計画、サービス計画、職員組織計画という名称は、計画としては、そもそも存在しておらず、その名称を本計画では引き継いでいない。

○委員

説明を踏まえると資料6—2目次対比の新しい基本方針と比較では、運営体制は、基本方針6に入るという理解で良い。

○副館長

専門性、職員集団をどう形成するのかなど、そのような内容に対応する基本方針のところで書き込んでいくという構成に現行計画からなっている。

○座長

説明は理解できたが、本計画の第6章の箇所、現行計画から出ている太い点線で現状と課題が出ている。第6章というのは、新しい図書館構想ではあるが、あくまでも5か年計画の中で新しい図書館構想を考えているもので、5か年計画そのものではない。よって先ほどの職員の問題は、将来構想で触れるべき内容ではない。

○副館長

ご指摘の箇所は、課題が第6章につながり、取組結果は第2章につながるイメージ。

○副座長

本計画では、図書館の現状と課題は、前半では出てこないということか。

○委員

現状は基本方針の取組で出てくる。

○座長

非常に重要なことなので再度確認する。

第6章は、あくまでも西東京市図書館として全体的な課題になりつつある内容であり、新しい図書館について、図書館側はどう考えているか示す部分であって、新しい図書館は、なぜ要求されるようになったのか、新しい図書館はどのような役割を果たすのかということをもとめ、第6章単独でも、市の他部局の方々に説明できる資料として位置付けられると認識している。少なくとも5か年計画という現行計画に記載されている項目全部に対応する現状と課題を第6章に負担させることはできない。従来とおり5か年計画として、現状と課題を分析し、このような5か年計画を立てる、ということを示すべき。つまり第6章は、新しい図書館構想についてだけ述べた部分だという認識だ。

○副館長

第6章の認識は同じだ。第2章から第6章前までの間で課題の記載が薄いという指摘があったので、構成を修正する必要があると考えている。

○座長

策定懇談会の進行上、第6章を先にまとめ、作り上げなければならないが、現状と課題については、第2章の方が先に整理されていれば、そこから第6章に持ってくるという進め方もあっても良かったが、いずれにせよ従来の形に戻した方が良い。

新旧図書館計画について、目次対比では、現行の5か年計画の大きな骨子は、本計画でも変えないこと、先ほどの課題は、しっかりと書いてしまうと分量として多くなってしまいうことであれば、同じにはならないが、取組みでも良い。いかがか。

○委員

図書館がこの先の本計画として使いやすいようにまとめるのが一番良い。取組という形でまとめる中に、現状と課題が含んで入っているという理解が良い。

○副館長

課題という文字では書かれていないが、取り組んだ結果として、そこに書かれる内容として、このような評価を得たが、これが課題だ、というように現行計画のように書くかどうか、書き方で示していきたい。

○委員

全体をとおして読んだ時に、後半の方に、課題がまとめて書いてあるというよりは、最初から読んでいった時にある方がよい。

○座長

大きな方針の部分が一番重要なので、整理していき、5か年計画についての議論を次回以降する。次回までに、第一の議題については、たたき台の再構成案を各委員に提示して整えていく予定で、議論を収束したい。何か他に付け加えることあれば。

○委員

次回までに確認しなければならないことはないか。

○副館長

今日は、基本方針の部分や、取り組み内容をまとめたものが間に合わなかったので、9月中に取りまとめた状態をメールで送る。次回、紙媒体を用意したい。

指摘のあった第2章に関する部分は、少々書き込みが必要な状態になるが、次回までメールで送れるようにする。

次に第3回の会議録の校正について、自身の発言箇所を確認しつつ、座長と協議したが、それぞれの発言箇所を要約して良いと書いて欲しい。

○座長

それぞれの発言を2行ぐらいにまとめる要旨という形で。

○副館長

策定懇談会の第3から第5回までは、新しい図書館構想に関する話を各委員がいろいろしている中、力点を置いて、図書館とはこうあるべき、という発言しているので、「である調」に修正することはできるが、本日、校正版として渡している以上に要約できていない。

○座長

それぞれの自己責任で、自己で要約し、一番言いたいことに絞って欲しい。

本日は、これで終わる。